

第11章 フレームを使って格好良くしよう

ここでは前の章で作ったような、長い Web ページを分割して読みやすくする手法としてフレームを紹介します。

11.1 フレームで画面分割

フレームとは図 11.1 のように、ブラウザの画面を縦方向 (column, 列) と横方向 (row, 行) に分割したものをいいます。

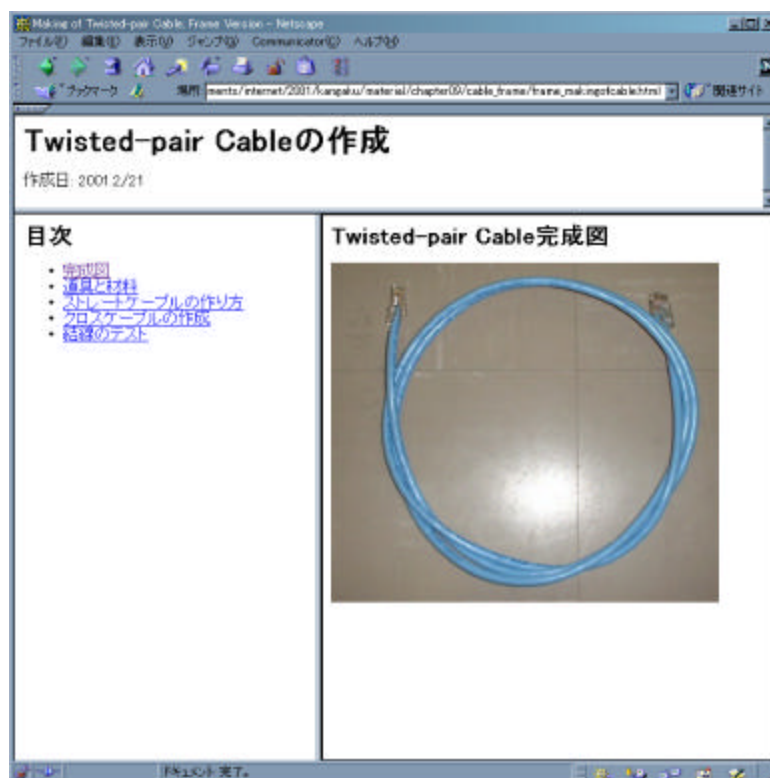


図 11.1: フレームを使った Web ページ

Composer にはフレームを作る機能はありません。従って、どのように分割するかはテキストエディタを使って HTML を記述して指定しなければなりません。例えば図 11.1 のように分割するに

は図 11.2 のようにします。

```
<HTML>
<TITLE>Making of Twisted-pair Cable; Frame Version</TITLE>
<FRAMESET rows="15%,*">
<FRAME name="title" src="title.html">
<FRAMESET cols="40%,*">
<FRAME name="menu" src="menu.html">
<FRAME name="main" src="kanseizu.html">
</FRAMESET>
</FRAMESET>
<NOFRAMES>
<BODY>
<FONT SIZE="3" COLOR="RED">このページはフレーム対応のブラウザで閲覧して下さい。
</FONT>
</BODY>
</NOFRAMES>
</FRAMESET>
</HTML>
```

図 11.2: フレーム本体

フレームは、フレームを表示する機能に対応しているブラウザでなければ見ることは出来ません。対応していない場合は `<noframes>` タグで囲まれた所が表示されます。

フレーム対応のブラウザでは分割されたフレームそれぞれに“`src=`”で指定された HTML ファイルが表示されます。もし指定されたフレームの名前“`name=`”をリンクのターゲット (Target)“`target=`”として指定すると、リンク先の HTML ファイルはその名前のフレームに表示されるようになります。これがターゲットの役割です。ターゲット名は `<A>` タグの中に追加して指定します。

なお、フレーム内に表示される Web ページは自作のものに限るようにしましょう。勝手に他のサイトを表示するのは相手側の著作物を勝手に利用していることになります。

ではフレーム表示のための部品を作ることになります。まず、前章で作った Web ページを図 11.3 のように

1. title.html
2. kanseizu.html
3. tool.html
4. straight.html
5. cross.html
6. test.html

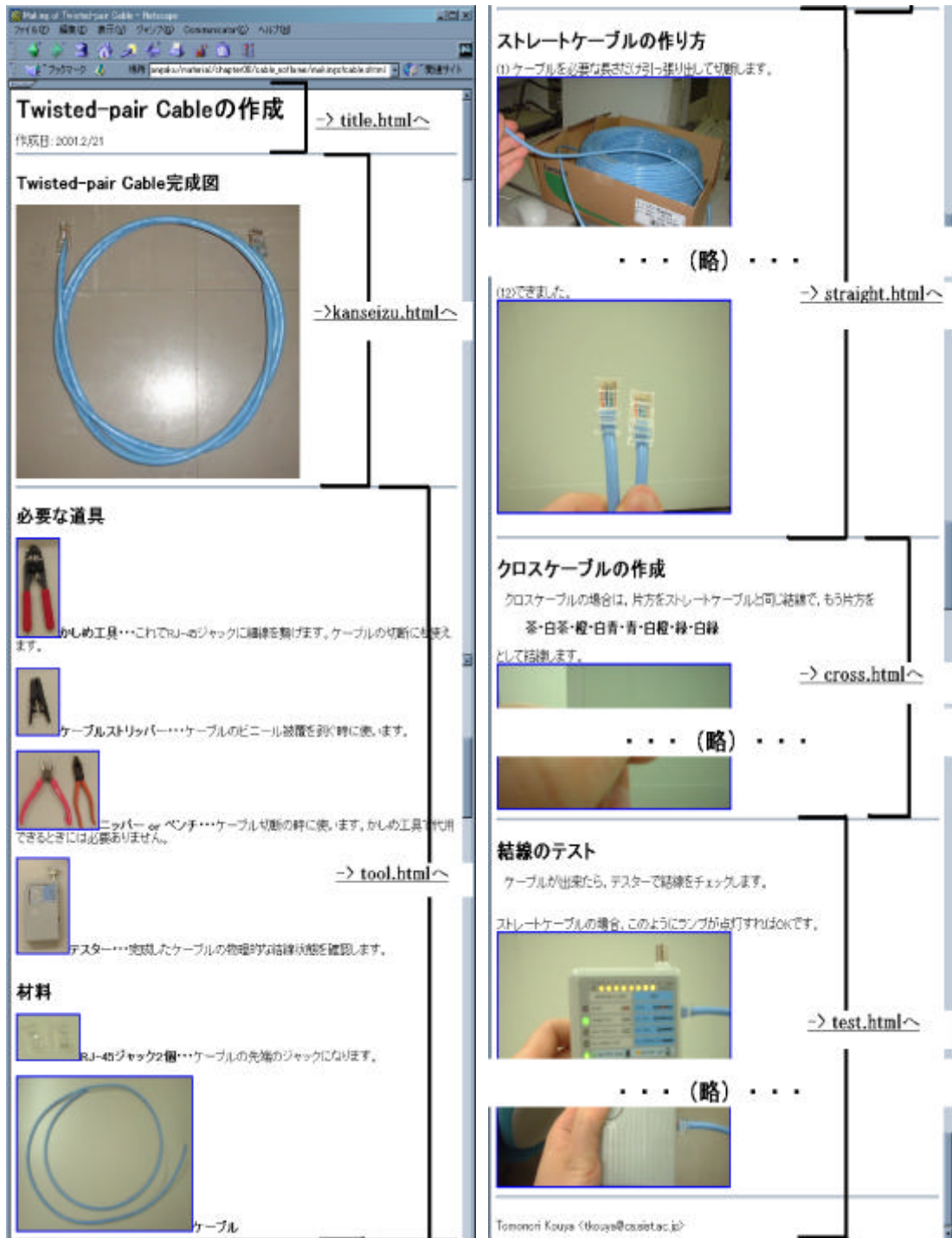


図 11.3: Web ページを分割する

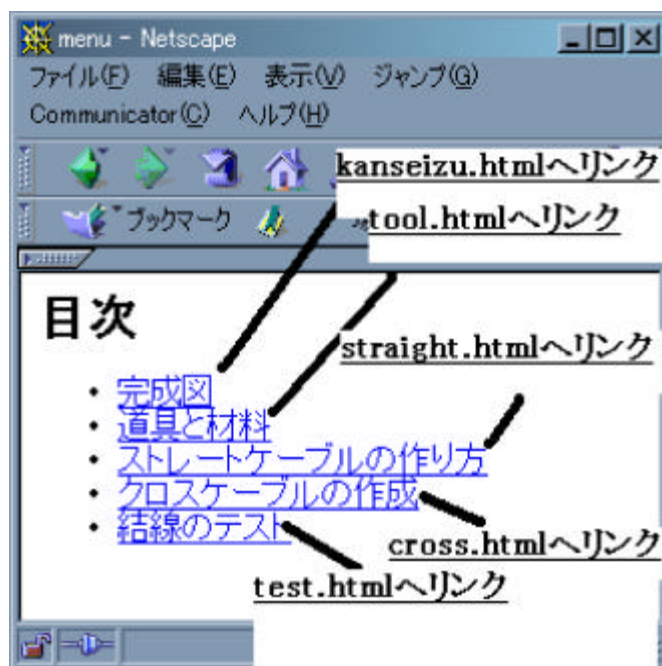


図 11.4: メニュー用の Web ページ

と、6つの HTML ファイルに分割して下さい。

次に、メニュー用の“menu.html”を Composer で新規に作成します (図 11.4)。

リンクを張るときには図 11.5 に示す手順で、どのフレームにリンク先の Web ページを表示させるかを指定します。

完成したら、フレームを表示し、メニュー内のリンクが正しく動作するか確認して下さい。

11.2 別 Window への表示

フレームに分割されていない Web ページでも、リンクをクリックすると別ウィンドウを表示するようなものがあります。これはフレームで使用したようにターゲットを指定することで可能になりますが、この場合は存在しないターゲット名を指定します。

存在しない名前のターゲットを指定したリンクをクリックすると、ウィンドウも別に開かれません。同じ名前のターゲットを持つ別のリンクがあれば、既に開かれたウィンドウはそのターゲット名を持ちますから、そのウィンドウにどちらのリンク先も表示されるようになります (図 11.6)。

練習問題

1. (自由課題) 前章までに作成してきた Web ページを全て統合して表示する Web ページを、フレームを使って構成せよ。

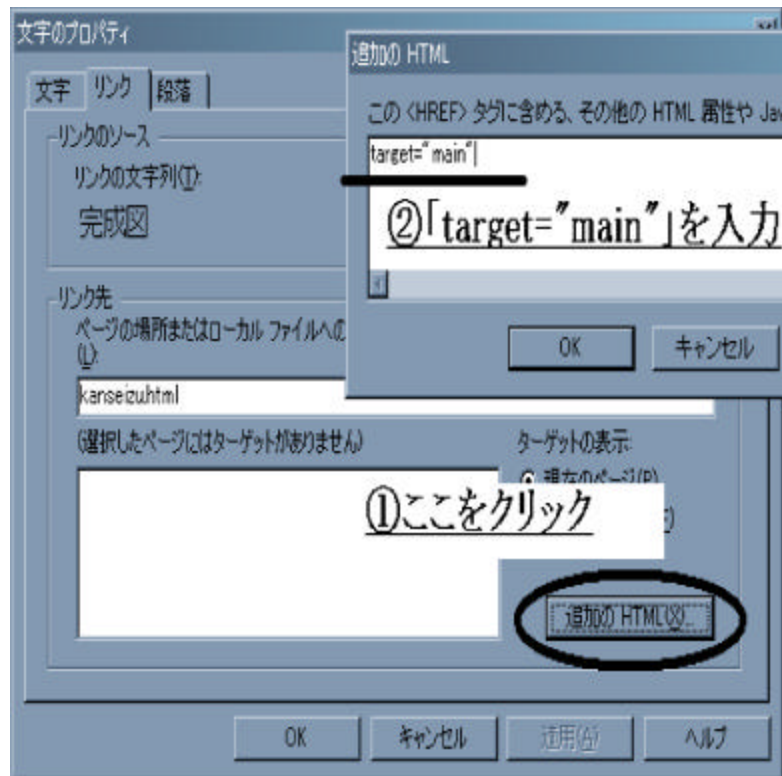


図 11.5: ターゲットの指定方法 (Composer)

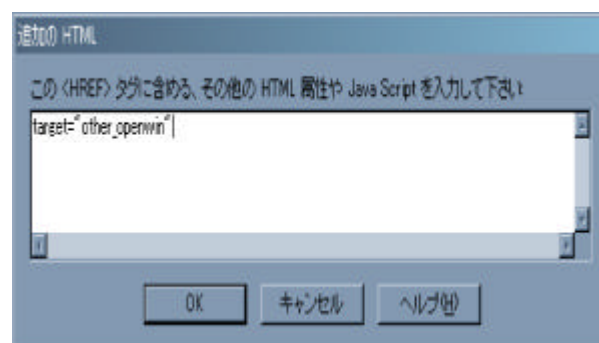


図 11.6: フレーム外の名前を指定する

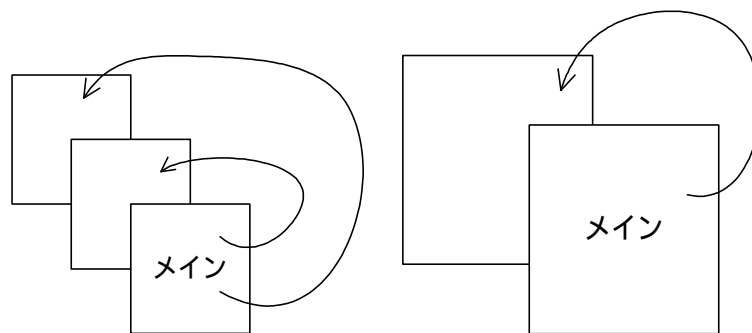


図 11.7: 別 Window への表示方法 (左... 別名のターゲットへ, 右... 同じターゲットへ)